01 価値創造の原動力 安川グループ経営理念

当社は創業者・安川第五郎の「創立の動機」をもとに、1970年代の第一次オイルショックの混乱の中における経営への危機感から、当社の企業理念を成文化した「社憲」を1979年に制定しました。そして2022年にグローバル全従業員の理解深耕・実践強化に向け、その理念を「私たちの存在意義(Our Purpose)」、「私たちの価値観(Our Values)」、「社員の心得(Our Actions)」に分け、安川グループ経営理念として改めて整理しました。

この経営理念は、私たちが事業を遂行する目的(存在意義)と、品質・利益・市場を核とする基本原則(価値観)ならびに日々の行動指針(社員の心得)の旗印となるもので、そこに込められた精神は時代が移り変わっても揺らぐことのない『私たちの原点』そのものです。私たちは、この原点を安川グループが未来に向けて持続的に成長していく心の拠り所として、そして判断の軸として日々の実践に努め、経営理念の実現を目指します。

Our Principles

YASKI

Column

社憲に生きる 創業の心

安川電機製作所(安川電機の前身)を創立した際に、創

業者安川第五郎は「創立の動機」を、また翌年の1916年には「営業方針」と13ヵ条の「覚書」をまとめました。営業方針には、「一時的な利益のために理想を忘れることなく、需要家の皆さまには誠心誠意尽くし、満足していただけることを第一義とすること」そして、覚書には、「わが社特有の設計製作に努める」「常に品質本位」「製品の優良な点をもって販路を拡める」などがありました。この覚書について、第五郎は「まことに青臭い書生論で、その後の業績に比べると冷汗三斗の思い」と述べています。しかし、大いに技術開発を行い、画期的な製品を世に送り、またお客さまの良い相談相手として親身にサービスするという心が、安川グループの特色や長所となり、その後も一貫して流れています。



第五郎の 著作や伝記





私たちの存在意義(パーパス)

当社グループの使命は、その事業の遂行を通じて広く社会の発展、人類の福祉に貢献する ことにある

安川電機は創業以来「電動機(モータ)とその応用」を大きな柱とし、事業を拡大してきました。その事業の遂 行を通じて当社の多様な技術・製品が社会に広がることで、機械の高度化やものづくりの自動化・省力化、労 働力の不足や3Kからの解放といった社会課題の解決につながります。人々が安全で安心な人間らしい生活 を送れる社会をつくること。これを私たち安川グループの存在意義とします。

私たちの価値観(バリュー)

当社グループはこの使命達成のために、つぎの3項目を掲げ、その実現に努力する。

1. 品質

品質重視の考えに立ち、常に世界に誇る技術を開発、向上させること。

2. 利益

経営効率の向上に努め、企業の存続と発展に必要な利益を確保すること。

3. 市場

市場志向の精神に従い、そのニーズにこたえるとともに需要家への奉仕に徹すること。

社員の心得(アクション/行動指針)

私たちは、当社の伝統を尊重し、経営理念の実現に努めるとともに、世間の信頼を高め、 もって会社の繁栄と自らの幸福を求めます。とくに、つぎの5項目を日々の行動指針とします。

- 一、お客さま本位に徹しよう。
- 一、高品質と高採算をあわせて追求しよう。
- 一、研鑚を重ね、不屈の気概をもって競争に打ち勝とう。
- 一、視野を広め、発想を転換しよう。
- 一、互いに信頼を深め、一致協力に努めよう。

Our Corporate Culture

安川電機は1915年の創業以来、事業領域を「電動機(モータ)とその応用」とし、「モータを動かすことで"コト"を成す」ことを100年以上真摯に追求し続けてきました。これは今後も決して変わらない企業としての核です。本ページでは、創業から100年以上にわたり、それぞれの時代の関係者が知恵を絞り、幾多の困難を乗り越える中で育まれた6つのDNA(企業文化)についてそのエピソードを紹介します。

DNA ❶ 技術立社 大正時代の初め、蒸気機関に代わる新たな動力として電動機があらゆる産業分野へ進出し始めていました。その先端技術の基礎を学んだ当社創業者安川第五郎は、父敬一郎の「資金は出すが、口出しはせぬ」との言葉に従い、1915年に、安川電機の前身である安川電機製作所を設立しました。当初は、そのほとんどが輸入品であり国産は極めて少なかった炭坑用電機品の受注製造からスタートしました。

第五郎は、「創立の動機」として、進んで国産電機品を海外へ輸出することで、少しでも国家に貢献したいとし、先行する欧米の模倣でなく、特有の技術をもって事業にあたるべく「技術立社」を社是として掲げます。これには当時29歳の第五郎の熱い思いが込められており、実際に各種モータに加え開閉器、変圧器など多種多様の製品開発を進めます。そしてこの時期に、当社の原点となる「技術立社」の風土ができました。



DNA ② お客さま重視・ アプリケーション重視 創業者安川第五郎は、安川電機製作所を創立した翌年、「営業方針」を作成。「一時的な利益のために理想を忘れることなく、需要家の皆さまには誠心誠意尽くし、満足していただけることを第一義とすること」を掲げました。また、事業を通じてモータがお客さまのところで使われるようになるにつれ、「モータの製造・販売だけでなく、お客さまにおける使われ方(アプリケーション)を学び最適なシステムを提供する」という考え方をもとに、組織全体のあるべき姿、方向性がつくられていきました。



戦後、エネルギーが石炭から石油へシフトし、重化学工業が発展しました。当時は1日24時間操業の製鉄や紡績といった素材の生産設備(プロセスオートメーション)を手がけており、お客さまの設備にトラブルを起こすことがあってはならないという中で、「品質本位」の考え方が組織に根付いていきました。

戦後、高炉まわりの原料自動装 入装置を中心に、独占的な強み を発揮



DNA ② メカトロニクス 当社は「お客さまの機械と当社のモータと制御装置を融合し、より高い機能を発揮する」ことを目指し「メカトロニクス」の概念を1969年に世界に先駆けて提唱しました。従来のプロセスオートメーションからファクトリーオートメーションへの事業展開を加速し、メカトロニクス市場の急成長に対し積極的に資源を投入し、新製品を多数発表しました。そのような中、日本初の全電気式アーク溶接ロボット「MOTOMAN-L10」が誕生し、当社ロボット事業の基盤が築かれました。



ミナーシャモータ(1958年) 現在のサーボモータのもととなるモータ。 応答速度が従来比100倍という画期的な製品



1960年代後半に製品化したモートアーム(左)、モートフィンガ(右)



MOTOMAN-L10(1977年) 日本初全電気式垂直多関節産 業用ロボット

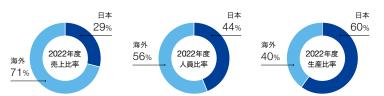


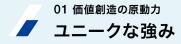
「メカトロニクス」の概念を打ち出した当初はまだ既存事業の割合が大きく、ビジョンを語るだけで文化としては定着していませんでした。そこで、全社を1つの方向に向けるための道具としてTQC(全社的品質管理)に取り組みました。共通の目的(上位方針)に向けて開発・生産・販売が目標を設定・管理するための道具など、経営管理の仕組みを徹底してつくり上げました。その結果、メカトロニクスというビジョンとTQCはセットで企業文化となり、組立産業型のオートメーションに向かうための開発や顧客開拓が大きく前進することとなりました。

1990年代以降、日本のバブル経済の崩壊により、海外の事業基盤を拡大するべく事業の現地化を進めました。その際、海外に日本のものをそのまま売るのではなく、その地域で必要とされるお客さま対応や製品の提供を行いました。これは、当時の多くの日本企業とは違う仕事の進め方でしたが、この文化と経営環境の変化がうまくマッチしました。今日では、各地域の特性に合わせた製品と販売組織に加え、世界共通の効率的な運営と各地域の特性に合わせた経営管理を両立するグローバル経営を実践しています。



2022年度海外比率(売上収益/人員/生産)





100年を超える歴史を経て培ってきた6つの DNA(企業文化)は、脈々と受け継がれる経 営理念の実践を通じて強化され、現在の安川 グループの強みを形づくっています。

企業文化としての

6つのDNA

DNA ❶ 技術立社

DNA ②
お客さま重視・
アプリケーション重視

DNA **❸** 品質第一

DNA **②** メカトロニクス

DNA ⑤ 方針管理

DNA @
グローバル



世界初 トランジスタインバータ VS-616T(1974年)



世界初 マトリクスコンバータ Varispeed AC(2005年)



複数ロボットの協調制御 MOTOMAN-SKシリーズ(1995年)



世界初 GaNパワー半導体搭載 アンプ内蔵サーボモータ(2017年)

世界初・世界一にこだわった

技術開発

創立期から「電動機(モータ)とその応用」を事業領域とし、多くの世界初・世界一の技術・製品を生み出してきました。当社発の技術・製品が産業のイノベーションにつながり、社会の発展に貢献しています。

Our Uni

お客さまの信頼

1930年代にモータの製造・販売だけでなく、その使われ方を学び、最適なシステムを提供することを方針として以来、お客さまに寄り添う姿勢を貫いてきました。現在も、お客さまが求めるコト(改善・進化)を実現する高付加価値・高品質な製品を提供し続ける方針のもと、お客さまとの強固な信頼関係に基づいたビジネスを推進しています。

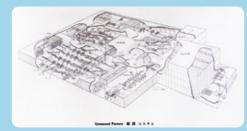




安川ソリューションファクトリ生産ライン

変革力

1969年、当社は「メカトロニクス」の概念を世界に先駆けて提唱し、翌1970年、メカトロニクスを活用し、人と機械が共生する自動化工場「アンマンドファクトリ」を構想しました。日本のものづくりが素材産業型から組立産業型に転換した1970年代、当社発の「メカトロニクス」思想が第三次産業革命をけん引するインパクトになりました。そして2018年、長らく構想してきたアンマンドファクトリを具現化する「安川ソリューションファクトリ」が誕生。「i³-Mechatronics」の実証工場として「ものづくり」と「ビジネス」の変革をけん引しています。安川グループは、データ駆動社会における最適生産システムを目指す第四次産業革命でも「i³-Mechatronics」の発想のもと、生産の進化をリードしていきます。



「アンマンドファクトリ」概念図

que Strengths

グローバル市場における

高いプレゼンス

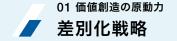
「進んで国産電機品を海外へ輸出することで、少しでも国家に 貢献したい」とした創業者の精神を受け継ぎ、創業初期から製 品の輸出を手掛けてきました。1990年代以降は事業の現地化 を進め、自社販売網・需要地生産体制の構築を推進し、現在で は世界トップレベルのブランドである製品群を有しています。

グローバル市場シェア(当社調べ)





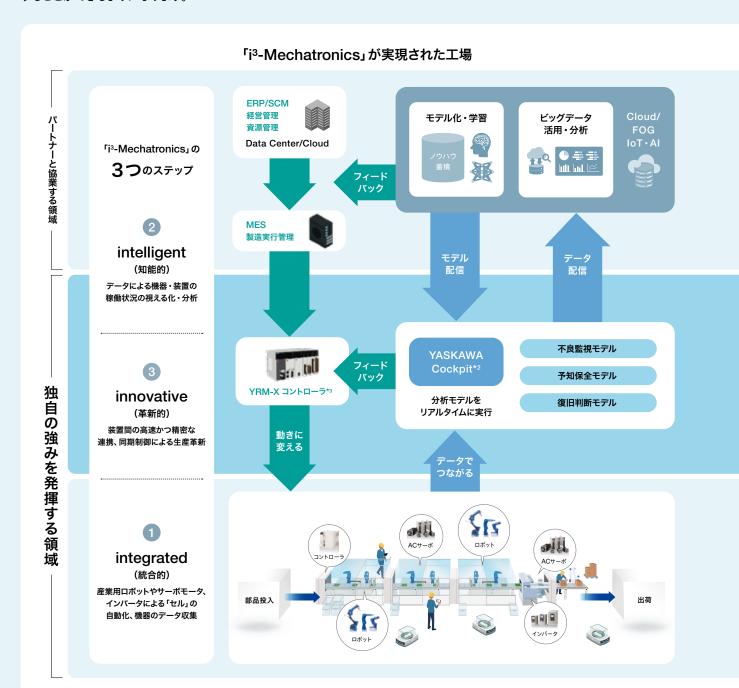




i³-Mechatronics

当社は、工場の生産ラインの1つの単位である「セル」を産業用ロボットやサーボモータ、インバータで自動化することを強みとしてきました。

2017年、当社はソリューションコンセプト「i³-Mechatronics」を発表し、お客さまが求める「コト(改善・進化)」に対するソリューションとして、「セル」の自動化に加えて、それらをデジタルデータで管理していくことを提案しています。これにより工場の機器の稼働状況(プロセスデータ)や生産状況(ステータスデータ)を、熟練者の経験に基づいた"暗黙知"ではない"数値"として管理することができるようになります。



「i³-Mechatronics」は、1 integrated(統合的)、2 intelligent(知能的)、3 innovative(革新的)の3つの"i"の ステップで進めます。

これにより、お客さまが目指すスマート工場の実現に向けて、生産・品質・保全などの観点からものづくりにおける様々 な課題の解決につなげます。(以下の図参照)

ファクトリーオートメーションに不可欠な「モノ(製品)」である産業用ロボット、サーボモータ、インバータにおいてグロー バルブランドを有し、自社生産において「i3-Mechatronics」の実践を積み重ねてきた当社ならではのソリューション提案 で差別化を図り、付加価値を創出します。

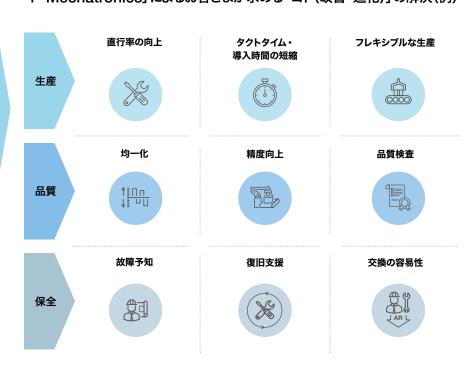




セル・システム (組立・加工など)



「i3-Mechatronics」によるお客さまが求める「コト(改善・進化)」の解決(例)

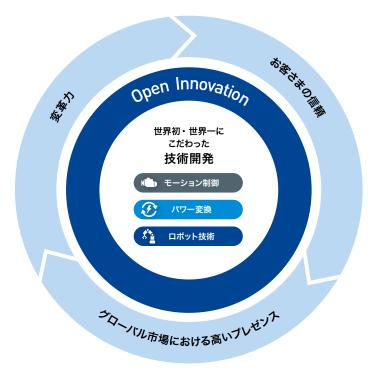


- *1 リアルタイム性が求められるデータ解析とフィードバックを行うための情報処理の領域(工場や生産拠点内など、生産現場に近いエリア)
- *2 生産現場の設備や装置のデータをリアルタイムで収集・蓄積・分析することができるソフトウェア
 *3 装置や産業用ロボットなどで構成された「セル」の様々なデータを高速かつリアルタイムそして時系列に同期し、統合的に制御するコントローラ

安川グループは、長年にわたり積み上げてきたユニークな強みを生かし、独自のビジネスモデルを通じて価値創造に 取り組んでいます。マテリアリティへの取組みを事業価値のさらなる向上につなげ、サステナブルな社会に貢献します。

持続的成長 インプット

ユニークな強み



経営資本

財務資本

事業活動を通じて創出したキャッシュを、成長投 資、株主還元、従業員配分の3方向に投入し、持 続的な利益成長と企業価値向上を実現します。

知的資本

世界初・世界一にこだわった技術開発を継続させな がら、開発パートナーとの協業、そしてグローバル知 財戦略を通じ、お客さま価値創造につなげます。

社会関係資本

様々なステークホルダーの皆さまとの信頼関係の もとに事業を遂行し、ともに発展し続けられる関 係構築に努めています。

製造資本

常に生産システムの効率化を追求し、十分な生産 能力を確保することで市場のニーズに確実に応え ます。

人的資本

変動の激しい事業環境にスピーディに対応し、 企業の進化と競争力強化を実現するために、多様 な従業員が能力を最大限発揮できる働きがいの ある会社を目指します。

自然資本

製品を通じた環境負荷低減(グリーンプロダクツ)、 当社グループの事業活動による環境負荷低減 (グリーンプロセス)の両面から価値を創造します。



YDX (YASKAWA Digital Transformation)によるデジ

受け継がれる当社のDNA(企業文化)

技術立社

お客さま重視・アプリケーション重視

安川グループ経営理念の実現

「事業の遂行を通じて広く社会の発展、人類の福祉に貢献する」

「i3-Mechatronics」を通じたサステナブルな社会への貢献

目指す姿

Respect Life

100年の技術の蓄積を生かし、生活の質向 上と持続可能な社会の実現に貢献する。

Empower Innovation

新しい技術・領域・目標に向かい 人々の心に「わくわく」を届ける。

Deliver Results

継続的な事業遂行力の向上により、 ステークホルダーに確実な成果を届ける。

バリューチェーン



アウトプット

経済価値の創出

営業利益・ROE・ROIC・配当性向

事業を通じた社会価値の創造と 社会的課題の解決

●「i³-Mechatronics」を通じたパートナー連携 で産業自動化革命の実現



●クリーンな社会インフラ構築と安全・快適な暮 らしの基盤づくり

マテリアリティ



オープンイノベーションを通じた新たな技術・ 事業領域の開拓



バイオメディカル用途双腕ロボット

サステナブルな社会/事業に寄与する経営基盤 の強化

- サステナブルな生産性の高いものづくり
- 働きがいのある職場づくりと人材育成
- 公正かつ透明性の高いガバナンス体制

事業ポートフォリオ

タル経営基盤を活用した開発・生産・販売・サービスの変革

品質第一

メカトロニクス

方針管理

グローバル